

実践団体情報

| | |
|-------------|--|
| 記入日 | 2023年1月19日（2022年度のチャレンジプラン） |
| 実践団体名 | 東京都立調布特別支援学校 |
| 代表者名 | 原田勝 |
| プラン全体のタイトル | 福祉避難所開設計画 —コロナ禍における持続的に発展可能な防災プラン— |
| 電話番号 | 042-487-7221 |
| メールアドレス | Kouzaburou_Tsunematsu@member.metro.tokyo.jp |
| 実践団体の説明 | <p>本校は1976年開校の、知的障害がある子供のための特別支援学校で、小学部・中学部合わせて170名近くが学んでいる。通学区域は調布市・三鷹市・狛江市で、多摩川や野川の流れる緑豊かな環境にある。「『地域』に生き、ともに伸びる学校」というスローガンを掲げ、地域と連携した教育活動を通して、共生社会の実現に向けた基盤づくりを行っている。また、児童生徒の自立と社会参加を目指し、特別支援教育の充実を図っている。地域との結びつきが深く、調布市、近隣の小学校と大学、隣接するマンションとの間に、それぞれ防災協定を結んでいる。本校の児童生徒を応援する地域住民によるボランティア組織もあり、様々な協力を得ている。コロナ禍にあって、学校と地域を分断させないために、地域の様々な機関とのつながりをより深めながら、防災の取組を工夫して行っている。</p> |
| 所属メンバー | <p>○東京都立調布特別支援学校：原田勝（校長）、常松浩三郎（生活指導主任）、金谷翔太、齋藤秀太郎、生活指導部 他</p> <p>○調布市：中川昇（総合防災安全課課長）、永井透 他</p> <p>○電気通信大学：五十嵐賢太郎（総務企画課課長補佐） 他</p> <p>○リソース・ネット：水戸和幸（代表）、大釜博美（防災担当）、坊野美代子、茂木秀樹、山田常夫 他</p> |
| 活動地域 | 東京都調布市 |
| 活動開始時期・結成時期 | 2022年4月 |
| 過去の活動履歴・受賞歴 | ○2012年度防災教育チャレンジプラン実践団体 |

○平成 22・23 年度東京都安全教育推進校。

プラン全体の概要

コロナ禍にあって、地域のニーズに応え、「持続的に発展可能な福祉避難所」を開設するための仕組みづくりをするプラン。コロナ禍をマイナスと捉えず、新しい工夫を生み出すためのもの、とプラスに捉えた。「持続的に発展可能な」という言葉には、時代の変化や災害の多様化にも対応できる持続するもの、との意味合いを込めた。

プランを推進したのは、調布特別支援学校の教職員（主に生活指導部）、調布市の職員（主に総合防災安全課）、電気通信大学の職員（主に総務企画課）、リソース・ネットという地域住民によるボランティア組織である。

プランの目的は五つ。①あらゆる災害に対応できるような実践的な訓練を行うこと、②福祉避難所の開設に役立つ最新の知見の収集と資料の紹介を行うこと、③建物の入口をリモートで開錠する仕組みを検討し、望ましい形を見いだすこと、④特別支援教育のノウハウを生かして、利用者が安心できる福祉避難所の実現に近づけること、⑤関係機関と協議し、「持続的に発展可能な福祉避難所開設マニュアル」を作成すること、である。

活動を通して期待したのは、本校を取り巻く地域の行政機関や教育機関、住民組織が「福祉避難所の開設」という共通の目的で連携し、協議や訓練を重ねて、地域ぐるみで防災意識の醸成を図ることである。また、様々な防災の取組を通して、地域との連携をより強固なものにすることである。さらに、災害時の実践的な対応力に磨きがかかり、地域の防災力の向上を図ることである。

プランの年間活動記録

| | プランの立案と調整 | 活動準備 | 実践活動 |
|-----|-------------|---------------------|------------------------------------|
| 4月 | 計画立案 会合 | 危機管理マニュアル整備 訓練準備 | 救急救命訓練 地震避難訓練 市福祉避難所開設訓練 |
| 5月 | 計画修正 会合 | 訓練準備 | 距離別・部門別の配備態勢 火災避難訓練 |
| 6月 | 会合 | 訓練準備 | 災害用伝言ダイヤル体験 地震避難訓練 |
| 7月 | 会合 | 訓練準備 | 総合防災訓練—1 宿泊防災訓練—2 |
| 8月 | 会合 | 訓練準備 | 市要配慮者移送訓練（中止） |
| 9月 | 会合 | 訓練準備 中間報告会準備 | 風水害避難訓練—3 |
| 10月 | 会合 | 訓練準備 | 異臭による二次避難訓練—4 |
| 11月 | 次年度の計画立案 会合 | 訓練準備 | 災害用伝言ダイヤル体験 地震の取組と起震車体験訓練 |
| 12月 | 会合 | 訓練準備 | 放送によらない地震避難訓練 |
| 1月 | 会合 | 訓練準備 最終報告書作成 | 火災の取組と煙体験訓練 |
| 2月 | 会合 | 訓練準備 活動報告会準備 | 地震避難訓練 災害用伝言ダイヤル体験 |
| 3月 | 次年度の活動準備 会合 | 訓練準備 | 地震火災避難訓練 |

| | |
|-----------------|---|
| プラン全体の反省点・課題・感想 | 感染が拡大した場合の対策を常に考えながら、諦めずに防災の取組を積み重ねた。ユニークな取組や地域とつながる取組を心掛け、手応えが得られたものもあれば、詰めが甘くて失敗したものもあった。思いが空回りし、「福祉避難所開設マニュアル」の作成が遅々として進まなかった。 |
| 今後の活動予定 | 地域を巻き込んで進めてきた今年度の防災の取組を検証し、改善策を講じながら更に充実したものにする。優れた防災の取組を行っている専門家や企業を見だし、連携を深めながら、福祉避難所の開設に向けた取組やマニュアルの整備に生かして、実際に機能する最適な形を追求する。 |

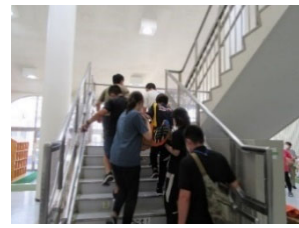
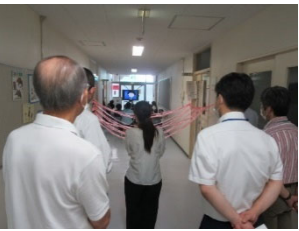
実践したプランの内容と成果

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 記入日 | 2023年1月19日（2022年度のチャレンジプラン） |
| 実践団体名 | 東京都立調布特別支援学校 |
| 実践番号 | 1 |
| タイトル | 総合防災訓練（年に一度の防災の大きな取組） |
| 実践担当者のお名前 | 常松浩三郎 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 実践にかかった金額 | ほぼ0円 |
| 実践の準備にかかった時間 | 数ヶ月 |
| 実践活動を実施した日時 | 2022年7月1日9時30分～14時55分 |
| 実践の所要時間 | 5時間25分 |
| 実践の運営側で動いた人の人数 | 10人 |
| 防災教育の対象者の属性 | 特別支援学校児童生徒（小学部・中学部）・教職員・PTA・地域住民・防災関係者 |
| 防災教育の対象者の人数 | 約240人 |
| 実践を行った都道府県と市区町村 | 東京都調布市 |
| 実践を行った具体的な場所 | 調布特別支援学校、コスモ調布ヶ丘、甲州街道 |
| ★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等 | ヘルメット、担架、車いす、避難所開設のノウハウのある市の職員、段ボールハウス、段ボールベッド、テント 他 |

| | | |
|---------------------|---|-----|
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○地震発生時の児童生徒の安全確保の方法や災害対策本部との連携の仕方を確認する。（地震避難訓練） ○児童生徒の防災に関する意識の向上を図る。（防災に関する授業） ○帰宅支援ステーションの開設に向けた動きの検証を行う。（帰宅支援ステーションの開設に向けた訓練） ○福祉避難所への搬送を想定し、出入口や階段等、導線や搬送上の問題を洗い出す。コスモ調布ヶ丘と連携し、災害時に助け合える関係構築の第一歩とする。（福祉避難所の開設に向けた訓練） | |
| どの力を身につけようとしてきましたか？ | 知識・技能 | かなり |
| | 思考力・判断力・表現力 | かなり |
| | 学びに向かう力・人間性 | 大いに |

実践内容・方法

**(1) 地震避難訓練（抜き打ち、障害物）** 9時30分～50分の間

地震を想定した避難訓練を抜き打ちで行った。おおまかな流れは、①緊急地震速報作動、②地震時の安全確保行動、③初動巡視による安全確認、④危険箇所の把握と対策の決定、⑤避難指示放送、⑥体育館への避難、というもの。避難する際の障害物として、ガラス片に似せた物を大量に散乱させた。

(2) 「防災に関する授業」 10時台

児童生徒の実態に合わせて各学年で工夫を凝らし、「防災に関する授業」を展開した。段階的・系統的に行えるよう、実施要項に各段階で取り組んでほしい内容例を載せた。全学年で取り組んでほしいものとして、①災害に関するDVDの視聴（地震や火災、自然災害等の動画の活用）、②防災に関するクイズ（ワークシート、パワーポイントのスライド等の活用）、を挙げた。同じ日に開催した第1回防災教育推進委員会では、「防災に関する授業」の様子を委員に見てもらった後、「地域のニーズに対応する防災体制の構築について」というテーマで協議を行い、有益な助言をいただいた。

(3) 帰宅支援ステーションの開設に向けた訓練 13時台

主な内容は、①災害用伝言ダイヤルへのメッセージ録音、②帰宅支援ステーション開設のための受付場所の設営、③トランシーバーを用いた帰宅困難者を誘導するための状況の伝達、というものである。調布市総合防災安全課や文化生涯学習課、男女共同参画推進課の職員が訓練の様子を見学し、様々な意見交換を行った。

(4) 福祉避難所の開設に向けた訓練 14時台

教職員が学校に隣接するマンションに出向き、住人の代表数名を担架と車いすに載せて学校まで搬送する訓練を行った。学校到着後、担架や車いすに人を載せた状態で、福祉避難所となる2階体育館まで階段を上ることができるかどうかを試した。その後で、調布市総合防災安全課の全面的な協力の下、プレイルームで災害用のテントや段ボールハウス、段ボールベッド等を組み立て、使い勝手を地域の人や教職員に試しても

| | | |
|---|--|------------|
|  | <p>らった。マンションの住人以外にも、リソース・ネットや調布市防災対策検討委員会のメンバー、障害福祉課の職員が参加し、様々な意見交換を行った。</p> | |
| <p>得られた成果</p>  | <p>○地震避難訓練では、抜き打ちで実施したにもかかわらず、多くの児童生徒が自発的に、物が「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せ、適切な安全確保行動をとった。</p> <p>○「防災に関する授業」では、事前に示した内容例を各学年が参考にし、児童生徒の発達段階に応じた段階的・系統的な内容になった。</p> <p>○帰宅支援ステーションの開設に向けた訓練では、災害対策本部のメンバーが積極的に動き、帰宅支援ステーションを開設するときの具体的なイメージをもつことができた。</p> <p>○福祉避難所の開設に向けた訓練では、隣接するマンションと初めてとなる合同訓練を行い、住人からも大変好評だった。本校にとっても地域と結びついた、今後につながる有意義な訓練となった。</p> | |
| <p>どのくらい身につきましたか？</p> | <p>知識・技能</p> | <p>かなり</p> |
| | <p>思考力・判断力・表現力</p> | <p>かなり</p> |
| | <p>学びに向かう力・人間性</p> | <p>大いに</p> |
| <p>課題・苦労・工夫</p>   | <p>○課題：災害時に災害対策本部が指示を出せない場合もあるので、教職員が自分で判断して行動するような内容を、もっと取り込む。</p> <p>○苦労：事前にコスモ調布ヶ丘、リソース・ネット、調布市総合防災安全課等に訓練の内容を伝え、協力を依頼した。特に、マンションの協力を得るために管理組合で話し合ってもらい、正式に許可を得た。担架や車いす等の物品の準備とシミュレーションを入念に行った。</p> <p>○工夫：障害物として、散乱したガラス片をリアルに示そうとした。要らなくなったビニール傘のビニール部分を細かく切り、ブルーシートの上に散らばせ、本物と見間違えるような物にした。</p> | |

| | |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| <p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p> | |
| <p>関係者の名前・団体名</p> | <p>コスモ調布ヶ丘</p> |
| <p>関係者の説明</p> | <p>本校と防災協定を結んでいる隣接するマンション</p> |

| | |
|---------|--------------------------|
| 関係者の連絡先 | h-mogi@khaki.plala.or.jp |
|---------|--------------------------|

| | |
|------------|-----------------------------|
| 関係者の名前・団体名 | リソース・ネット |
| 関係者の説明 | 本校の児童生徒を応援する地域住民によるボランティア組織 |
| 関係者の連絡先 | k.mito@uec.ac.jp |

| | |
|------------|--|
| 関係者の名前・団体名 | 調布市（総合防災安全課、文化生涯学習課、男女共同参画推進課、障害福祉課、防災対策検討委員会） |
| 関係者の説明 | 本校所在地の行政機関 |
| 関係者の連絡先 | 042-481-7349 |

| | |
|------------|--------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 電気通信大学（総務企画課） |
| 関係者の説明 | 本校と防災協定を結んでいる近隣の大学 |
| 関係者の連絡先 | 042-443-5008 |

| | |
|------------|------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 鈴木真也氏（調布消防署警防課長） |
| 関係者の説明 | 本校の防災教育推進委員 |
| 関係者の連絡先 | 042-486-0119 |

| | |
|------------|------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 中村智文氏（調布警察署警備課長） |
| 関係者の説明 | 本校の防災教育推進委員 |
| 関係者の連絡先 | 042-488-0110 |

| | |
|------------|---------------------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 飯島慶裕氏（調布市立第一小学校副校長） |
| 関係者の説明 | 本校の防災教育推進委員、本校の防災協定を結んでいる近隣の小学校 |
| 関係者の連絡先 | 042-481-7636 |

| | |
|------------|--------------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 松澤和昌氏（いっしょうふれあいネットワーク会長） |
| 関係者の説明 | 本校の防災教育推進委員 |
| 関係者の連絡先 | 042-482-2634 |

| | |
|------------|--------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 高橋友美子氏（PTA 危機管理担当） |
| 関係者の説明 | 本校の防災教育推進委員 |
| 関係者の連絡先 | — |

| | |
|-----------------------------------|--|
| ★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ | |
| 伝えたい相手 | 児童生徒、教職員、地域住民 |
| 伝えたい内容 | <p>○児童生徒：地震避難訓練や「防災に関する授業」を通して学んだことを生かし、災害時に落ち着いて対応すること。</p> <p>○教職員：普段から災害を意識し、災害に備えた心構えをしておくこと。地域とのつながりを重視し、学校が孤立しないようにすること。</p> <p>○地域住民：学校とのつながりを大切にし、互いに助け合える関係を築いていってほしいこと。</p> |




実践したプランの内容と成果

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 記入日 | 2023年1月19日（2022年度のチャレンジプラン） |
| 実践団体名 | 東京都立調布特別支援学校 |
| 実践番号 | 2 |
| タイトル | 宿泊防災訓練（3年ぶりに実施した最初の宿泊行事） |
| 実践担当者のお名前 | 常松浩三郎 |

| | |
|--------------------------------|--|
| 実践にかかった金額 | 3万円未満 |
| 実践の準備にかかった時間 | 数ヶ月 |
| 実践活動を実施した日時 | 2022年7月1日16時00分～7月2日8時30分 |
| 実践の所要時間 | 16時間30分 |
| 実践の運営側で動いた人の人数 | 22人 |
| 防災教育の対象者の属性 | 特別支援学校生徒（中学部1年）・教職員（中学部1年・管理職・主幹教諭・養護教諭・生活指導部）・保護者・地域住民・防災関係者 |
| 防災教育の対象者の人数 | 約27人 |
| 実践を行った都道府県と市区町村 | 東京都調布市 |
| 実践を行った具体的な場所 | 調布特別支援学校（音楽室） |
| ★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等 | 水消火器、初期消火的的、災害に関するDVD、ヘルメット、ペットボトル（水）、カセットコンロ、非常食①（白飯、カレー、水）、非常食②（五目ご飯、オニオンスープ）、紙コップ、お椀、ボール、スプーン、ごみ袋、LEDヘッドライト、LEDランタン、懐中電灯、毛布、敷きマット、紙石けん、ウエットシート、キッチンタオル、除菌スプレー、乾電池 他 |

| | | |
|-----------------|--|-----|
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の防災意識の育成を図る。 ○生徒の安全確保に向けた教職員の危機管理体制を点検する。 ○生徒の安全確保に向けた家庭との連絡・連携体制を点検する。 | |
| どの力を身につけようとしたか？ | 知識・技能 | かなり |
| | 思考力・判断力・表現力 | かなり |

| | 学びに向かう力・人間性 | 大いに |
|---|---|-----|
| <p>実践内容・方法</p>      | <p>(1) 保護者・教職員への通信訓練 13 時台</p> <p>災害時を想定し、保護者との通信の仕方を確認するため、メールを活用した通信訓練を 5 回行った。保護者が現在の状況等を返信するものも取り入れ、相互に連絡が取れるようにした。</p> <p>(2) 火災避難訓練・初期消火訓練・防災講話 16 時台</p> <p>調布消防署と連携し、火災に関連する取組を行った。</p> <p>火災避難訓練は、中学部 1 年生が教室にいる状態で開始した。教室に近い場所で使用していたコードリールから出火した、との想定であった。コードリールからの出火という想定にしたことで、火が出にくい場所でもリアリティをもたせることができた。風向きを考え、校庭ではなくスクールバス駐車スペースへの避難指示を出し、次の訓練の場所に誘導した。生徒はヘルメットをかぶり、出火場所を避けて避難した。避難する際には、「おはなし」（落ち着いて待つ・話を聞く・並んで歩く・静かにする）という本校の肯定文による避難時の約束を守り、ハンカチ等で口を覆って、できるだけかがんで進んだ。</p> <p>初期消火訓練は、スクールバス駐車スペースで水消火器を用いて実施した。的に向けて消火器を構え、レバーを握って放水した。生徒の実態に合わせて教職員が支援を行った。</p> <p>防災講話は、音楽室に移動して行った。生徒は災害に関する DVD を視聴した後、消防署員による防災講話に耳を傾けた。</p> <p>(3) 非常食作成訓練・非常食体験 17・18 時台、翌 6・7 時台</p> <p>リソース・ネットと連携し、調理室で災害時を想定した非常食作成訓練と非常食体験を行った。各教室で非常食を食べた後、調理室前の廊下で容器をキッチンペーパーで拭い、ごみの分別を行った。</p> <p>(4) 就寝に備えた物品運搬訓練 17 時台</p> <p>それぞれの教室で就寝場所の清掃を行い、体育館等から自分の寝具（マット 1 枚・毛布 2 枚）を運んだ。</p> | |

| | | |
|---|---|------------|
|  | <p>(5) 災害備蓄品利用訓練（暗闇体験） 19 時台</p> | |
|  | <p>災害時を想定し、停電になったときの対応の仕方を学ぶというねらいで、災害備蓄品利用訓練（暗闇体験）を実施した。校舎 2 階の灯りを全て消した状態で、生徒は LED ヘッドライト・LED ランタン・懐中電灯の中から気に入った物を選び、足元を照らして体育館に向かい、明日の朝食となる五目ご飯の袋を取って教室に戻ってくる、という取組である。生徒の実態に合わせて教職員がつき、一人で体験させる場合にはさりげなく見守りを行った。教室で待機している間は、LED ヘッドライトや LED ランタン等の使い方を学んだ。</p> | |
|  | <p>(6) 就寝時の安全確保訓練 20 時台</p> | |
| | <p>それぞれの教室で就寝に向けた準備を行った。備蓄の水やウエットシートを用いて手洗いやうがい、洗面等を行った。廊下には常夜灯代わりに LED ランタンを置き、階段等に立入禁止のバーを設置して、使用しない教室を施錠した。</p> | |
| | <p>(7) 引き渡し訓練 8 時台</p> | |
| | <p>生活指導部で引き渡しに向けた準備を行った。受付用の机やコーンを設置し、矢印等の表示を行った。保護者が来た際にはトランシーバーを用いて状況を伝え合い、身元確認を確実に行って生徒を引き渡した。</p> | |
| <p>得られた成果</p> | <p>○どのプログラムも生徒たちが積極的に取り組み、有意義な時間となった。特に、暗闇体験をととても楽しんでいた。</p> <p>○生活指導部が組織的に動き、食事の作成等で応援に入った者が献身的に関わったことで、訓練としてまとまったものになった。</p> | |
| <p>どのくらい身につきましたか？</p> | <p>知識・技能</p> | <p>かなり</p> |
| | <p>思考力・判断力・表現力</p> | <p>かなり</p> |
| | <p>学びに向かう力・人間性</p> | <p>大いに</p> |
| <p>課題・苦勞・工夫</p> | <p>○課題：参加した学年や生活指導部以外の教職員が、参加してみようと思わせるような内容を、もっと盛り込む。</p> <p>○苦勞：様々な訓練を円滑に行うための計画と使用する膨大な物品の準備。宿泊を伴う行事なので、教育委員会への実施計画書の提出や参加者</p> | |

| | |
|--|--|
| | <p>への PCR 検査の実施も必要であった。総合防災訓練と同日に実施したので、非常に苦労した。特に、3年ぶりとなる最初の宿泊行事だったので、参加する教職員の緊張感が普通ではなく、安心させるためにも計画と準備に万全を期す必要があった。</p> <p>○工夫：それぞれの訓練での動線を明確にした。生徒の実態をよく知る学年の教職員に「生徒用のしおり」を作成してもらった。</p> |
|--|--|

| | |
|--------------------------------|--------------|
| ★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について | |
| 関係者の名前・団体名 | 調布消防署 |
| 関係者の説明 | 本校所在地の消防署 |
| 関係者の連絡先 | 042-486-0119 |

| | |
|------------|-----------------------------|
| 関係者の名前・団体名 | リソース・ネット |
| 関係者の説明 | 本校の児童生徒を応援する地域住民によるボランティア組織 |
| 関係者の連絡先 | k.mito@uec.ac.jp |

| | |
|-----------------------------------|--|
| ★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ | |
| 伝えたい相手 | 生徒、教職員、保護者、地域住民 |
| 伝えたい内容 | <p>○生徒：宿泊防災訓練で学んだことを生かし、災害で校内に宿泊する事態になっても、落ち着いて過ごしてほしいこと。</p> <p>○教職員：普段から災害を意識し、災害に備えた心構えをしておくこと。地域とのつながりを重視し、学校が孤立しないようにすること。</p> <p>○保護者：日頃から家庭でも災害時の対応を意識してほしいこと。</p> <p>○地域住民：学校とのつながりを大切に、互いに助け合える関係を築いてほしいこと。</p> |


実践したプランの内容と成果

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 記入日 | 2023年1月19日（2022年度のチャレンジプラン） |
| 実践団体名 | 東京都立調布特別支援学校 |
| 実践番号 | 3 |
| タイトル | 風水害避難訓練（コロナ禍でもできる新しい避難訓練） |
| 実践担当者のお名前 | 常松浩三郎 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 実践にかかった金額 | ほぼ0円 |
| 実践の準備にかかった時間 | 数ヶ月 |
| 実践活動を実施した日時 | 2022年9月12日9時35分～11時40分 |
| 実践の所要時間 | 2時間5分 |
| 実践の運営側で動いた人の人数 | 23人 |
| 防災教育の対象者の属性 | 特別支援学校児童生徒（小学部・中学部）・教職員 |
| 防災教育の対象者の人数 | 約200人 |
| 実践を行った都道府県と市区町村 | 東京都調布市 |
| 実践を行った具体的な場所 | 調布特別支援学校体育館 |
| ★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等 | ICTに長けた人、パソコン、プロジェクター、気象災害のDVD、強い雨や雷・強い風等の効果音のCD、木と川と建物の絵の描かれたつい立て、正誤の効果音の出るスティック、窓の絵の描かれたホワイトボード、長机 他 |

| | | |
|--------------------|--|-----|
| 達成目標 | ○急な大雨・雷・竜巻から身を守る。（急な大雨・雷・竜巻の危険を知り、身を守るための場所を自分で選ぶ。） | |
| どの力を身につけようと思いましたか？ | 知識・技能 | 大いに |
| | 思考力・判断力・表現力 | 大いに |
| | 学びに向かう力・人間性 | 大いに |
| 実践内容・方法 | 風水害を想定した避難訓練を、小学部低学年、中学部、小学部高学年の三つに分けて天候に左右されない体育館で実施した。一斉に避難する通常の避難訓練とは異なり、児童生徒が自分で避難先を考えて避難するという、本校では初めてとなる訓練を行った。 | |

| | | | | | | | |
|--|---|-------|-----|-------------|-----|-------------|-----|
|  | <p>(1) 災害イメージの具体化</p> <p>急な大雨・雷・竜巻の実際の被害映像や適切な行動例・不適切な行動例を示すわかりやすい気象災害の DVD をプロジェクターで大画面に映し、鑑賞してもらった。急な大雨・雷・竜巻の場合、どんな場所が危険で、どこに避難すればよいか学習してもらい、災害イメージの具体化を図った。</p> <p>(2) 具体的な避難の選択と実践</p> <p>木と川と建物の絵の描かれた 3 枚のつい立てを出し、急な大雨のとき・雷が鳴っているとき・竜巻が近づいているとき、それぞれどこに避難すればよいか、クイズ形式で児童生徒に問い掛けた。児童生徒が避難先に動く際には、場面ごとに関連する映像を大画面に投影し、強い雨・雷・強い風等の効果音を流した。正解発表のときには正誤の効果音の出るスティックを用い、自分の選択が正しいか、間違っているかを知ってもらった。</p> <p>竜巻の場合の対応の補足として、頑丈な建物に入った後、窓から離れて机の下にもぐることを、実際に模範を示して伝えた。</p> | | | | | | |
| <p>得られた成果</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒は雷の音や竜巻の映像に驚いたり、「怖い」と口にしたりして、災害のイメージを十分にもつことができた。 ○児童生徒は絵の描かれた 3 枚のつい立てに興味津々で、避難先を選ぶときも積極的に動いた。 ○家に逃げるのが正しい、と理解した児童生徒が多かった。 ○正誤の判定をする際、「ピンポン！」や「ブー！」という音が鳴る度に会場が沸き、選択が間違っているにもかかわらず笑顔で受けとめられた。 ○取組がわかりやすく、自分たちが実践した満足感もあって、児童生徒はまとめの時間に落ち着いて学習を振り返ることができた。 | | | | | | |
| <p>どのくらい身につきましたか？</p> | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">知識・技能</td> <td style="width: 50%;">大いに</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>大いに</td> </tr> <tr> <td>学びに向かう力・人間性</td> <td>大いに</td> </tr> </table> | 知識・技能 | 大いに | 思考力・判断力・表現力 | 大いに | 学びに向かう力・人間性 | 大いに |
| 知識・技能 | 大いに | | | | | | |
| 思考力・判断力・表現力 | 大いに | | | | | | |
| 学びに向かう力・人間性 | 大いに | | | | | | |
| <p>課題・苦勞・工夫</p> | <p>○課題：児童生徒の居住時の近くの地域で起こった災害の写真や動画を取り入れられればよかった。風水害は身近に起こるものとの実感によりつなげられたと思う。</p> | | | | | | |

| | |
|---|--|
|  | <p>○苦勞：絵の得意な教職員に依頼し、模造紙に木と川と建物の絵を描いてもらった。つい立てや効果音のCD、プロジェクター等を用いて、体育館で本番さながらの入念なシミュレーションを行った。</p> <p>○工夫：取組が児童生徒によりわかりやすくなるように工夫を凝らした。①木と川と建物の絵が描かれたつい立てを並べ、児童生徒がどこに避難すればよいかを具体的に選べるようにした。②クイズ形式で問い掛けた。③児童生徒が避難に移る際、場面ごとに関連する映像を大画面に映し、強い雨・雷・強い風等の効果音を流した。④正解発表時に正誤の効果音の出るスティックを用いた。</p> |
|---|--|

| | |
|--------------------------------|-------------------|
| ★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について | |
| 関係者の名前・団体名 | 調布市（総合防災安全課） |
| 関係者の説明 | 本校と防災協定を結んでいる行政機関 |
| 関係者の連絡先 | 042-481-7349 |

| | |
|------------|--------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 電気通信大学（総務企画課） |
| 関係者の説明 | 本校と防災協定を結んでいる近隣の大学 |
| 関係者の連絡先 | 042-443-5008 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| ★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ | |
| 伝えたい相手 | 児童生徒、教職員 |
| 伝えたい内容 | <p>○児童生徒：急な天候の変化に遭遇したときに、安全を確保するための適切な行動をとってほしいこと。</p> <p>○教職員：防災の取組がマンネリ化しないように工夫し、児童生徒に響くようなものにする事。</p> |

実践したプランの内容と成果

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 記入日 | 2023年1月19日（2022年度のチャレンジプラン） |
| 実践団体名 | 東京都立調布特別支援学校 |
| 実践番号 | 4 |
| タイトル | 異臭に対応した二次避難訓練（地域と共に行う避難訓練） |
| 実践担当者のお名前 | 常松浩三郎 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 実践にかかった金額 | ほぼ0円 |
| 実践の準備にかかった時間 | 数ヶ月 |
| 実践活動を実施した日時 | 2022年10月25日10時00分～11時30分 |
| 実践の所要時間 | 1時間30分 |
| 実践の運営側で動いた人の人数 | 23人 |
| 防災教育の対象者の属性 | 特別支援学校児童生徒（小学部・中学部）・教職員・PTA・地域住民・防災関係者 |
| 防災教育の対象者の人数 | 約220人 |
| 実践を行った都道府県と市区町村 | 東京都調布市 |
| 実践を行った具体的な場所 | コスモ調布ヶ丘、都立調布特別支援学校、電気通信大学 |
| ★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等 | ヘルメット |

| | | |
|-----------------|---|-----|
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○ガス漏れ等で学校敷地外への避難が必要な場合の行動を習得する。 ○教職員の指示に従い、安全かつ迅速に避難する。（児童生徒） ○二次避難場所に速やかに避難誘導し、児童生徒の安全確保の方法を習得する。（教職員） | |
| どの力を身につけようとしたか？ | 知識・技能 | 少し |
| | 思考力・判断力・表現力 | かなり |
| | 学びに向かう力・人間性 | かなり |
| 実践内容・方法 | <p>隣接するマンションから異臭が発生したとの想定で、4年ぶりとなる二次避難訓練を、コスモ調布ヶ丘、リソース・ネット、電気通信大学と連携して実施した。おおまかな流れは、①マンションの住人からの異臭が充満しているという連絡、②校内への注意喚起放送、③災害対策本部による対策の検討、④避難指示放送、⑤校庭への避難、⑥電気通信大学</p> | |

| | | | | | | | |
|--|--|-------|-----|-------------|-----|-------------|-----|
|  | <p>への二次避難、というもの。児童生徒が甲州街道を通過して電気通信大学に向かうときには、マンションの住人やリソース・ネットのメンバーが見守りを行った。</p> <p>同じ日に開催した第2回防災教育推進委員会では、訓練の様子を委員や防災の専門家、防災に関する製品を開発している企業の方に見てもらった。訓練後、「地域と連携した防災教育の充実について」というテーマで協議を行って有益な助言をいただき、連携を深められた。</p> | | | | | | |
| <p>得られた成果</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ○校庭に避難する際、児童生徒が「おはなし」（落ち着いて待つ・話を聞く・並んで歩く・静かにする）という本校の肯定文による避難時の約束を守って、スムーズに避難できた。 ○二次避難を行う際、地域の人に見守っていただけた。本校では初めてのことである。今後、二次避難を行う状況になったときに、同じような協力が得られる。 ○防災に関する製品の詳しい内容を知ることができた。 ○本校の防災の取組を、防災教育推進委員以外の外部の方に知っていただき、今後の連携と協力の約束を取りつけることができた。 | | | | | | |
| <p>どのくらい身につきましたか？</p> | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">知識・技能</td> <td style="width: 50%;">かなり</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>かなり</td> </tr> <tr> <td>学びに向かう力・人間性</td> <td>かなり</td> </tr> </table> | 知識・技能 | かなり | 思考力・判断力・表現力 | かなり | 学びに向かう力・人間性 | かなり |
| 知識・技能 | かなり | | | | | | |
| 思考力・判断力・表現力 | かなり | | | | | | |
| 学びに向かう力・人間性 | かなり | | | | | | |
| <p>課題・苦勞・工夫</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○課題：雨天時の二次避難訓練の形。単に体育館に避難するだけでは、充実した取組になりにくい。 ○苦勞：事前にコスモ調布ヶ丘、リソース・ネット、電気通信大学に訓練の内容を伝え、協力を依頼した。特に、マンションの協力を得るために管理組合で話し合ってもらい、正式に許可を得た。4年ぶりとなる二次避難訓練をコロナ禍で本当にやるのか、やらなくてよいのでは、と消極的だった校内の雰囲気、絶対に退かない姿勢を示して実施する方向に持っていった。 ○工夫：地域を巻き込んで行う訓練の形。校内での異臭の発生ではなく、隣接するマンションで異臭が発生し、学校に連絡してもらおうようにした。また、自転車がひっきりなしに通って危ない甲州街道の歩道を児童 | | | | | | |

| | |
|--|--|
| | 生徒が避難する際に、マンションの住人やリソース・ネットのメンバーに見守ってもらうようにした。 |
|--|--|

| | |
|--------------------------------|--------------------------|
| ★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について | |
| 関係者の名前・団体名 | コスモ調布ヶ丘 |
| 関係者の説明 | 本校と防災協定を結んでいる隣接するマンション |
| 関係者の連絡先 | h-mogi@khaki.plala.or.jp |

| | |
|------------|--|
| 関係者の名前・団体名 | リソース・ネット |
| 関係者の説明 | 本校の児童生徒を応援する地域住民によるボランティア組織 |
| 関係者の連絡先 | k.mito@uec.ac.jp |

| | |
|------------|---------------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 電気通信大学（総務企画課） |
| 関係者の説明 | 本校と防災協定を結んでいる近隣の大学、二次避難場所 |
| 関係者の連絡先 | 042-443-5008 |

| | |
|------------|-------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 調布市（総合防災安全課） |
| 関係者の説明 | 本校と防災協定を結んでいる行政機関 |
| 関係者の連絡先 | 042-481-7349 |

| | |
|------------|-----------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 市古太郎氏（東京都立大学教授） |
| 関係者の説明 | 本校の防災教育の助言者 |
| 関係者の連絡先 | ichiko-taro@tmc.ac.jp |

| | |
|------------|--|
| 関係者の名前・団体名 | 辻真一氏（DXアンテナ株式会社） |
| 関係者の説明 | 携帯電話による遠隔開錠システムを開発した企業の開発担当者 |
| 関係者の連絡先 | s_tsuji@dxantenna.co.jp |

| | |
|------------|--------------------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 吉田季央氏（大塚包装工業株式会社） |
| 関係者の説明 | 段ボール製の非常用簡易トイレやベッド等を開発した企業の担当者 |
| 関係者の連絡先 | Yoshida.Toshihisa@otsuka.jp |

| | |
|------------|--------------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 扇谷政毅氏（大塚ウエルネスベンディング株式会社） |
| 関係者の説明 | 緊急時解放備蓄型自動販売機を開発した企業の担当者 |
| 関係者の連絡先 | Ogiya.Masaki@otsuka.jp |

| | |
|------------|------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 鈴木真也氏（調布消防署警防課長） |
| 関係者の説明 | 本校の防災教育推進委員 |
| 関係者の連絡先 | 042-486-0119 |

| | |
|------------|------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 中村智文氏（調布警察署警備課長） |
| 関係者の説明 | 本校の防災教育推進委員 |
| 関係者の連絡先 | 042-488-0110 |

| | |
|------------|---------------------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 飯島慶裕氏（調布市立第一小学校副校長） |
| 関係者の説明 | 本校の防災教育推進委員、本校と防災協定を結んでいる近隣の小学校 |
| 関係者の連絡先 | 042-481-7636 |

| | |
|------------|--------------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 松澤和昌氏（いっしょうふれあいネットワーク会長） |
| 関係者の説明 | 本校の防災教育推進委員 |
| 関係者の連絡先 | 042-482-2634 |

| | |
|------------|--------------------|
| 関係者の名前・団体名 | 高橋友美子氏（PTA 危機管理担当） |
| 関係者の説明 | 本校の防災教育推進委員 |
| 関係者の連絡先 | — |

| | |
|-----------------------------------|---|
| ★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ | |
| 伝えたい相手 | 児童生徒、教職員、地域住民 |
| 伝えたい内容 | <p>○児童生徒：災害時等の困ったときに、学校の先生だけでなく、地域の人も助けてくれるということ。</p> <p>○教職員：普段から地域の人や団体と心の通った交流をする必要性。</p> <p>○地域住民：災害時等の困ったときに、学校とどのような形で助け合えるかを、防災の取組を通して確かめていってほしいこと。</p> |